



# おちほ

第36号 平成12年3月1日 発行 社会福祉法人 椎の木会 落穂寮 発行者 山下 陽一

# 新 成 人



# ぼ く た ち

「十日はひどい天気らしい」と散々言われて迎えた成人式。朝から雨模様で行く先が不安でしたが、寮を出発する頃には雨も上がり、ビシッとスーツ姿できめた江竜さん、かわいいワンピース姿の上西さん、残念ながら小山さんは欠席でしたが、今から何があるのか知ってか知らずか二人共そわそわしていました。会場に着くと周りはスーツや綺麗な着物の人がばかりで思わず見とれてしまいました。すぐに記念写真となったのですが、素直な感想を云うとその中に混じると二人共二十歳に見えませんでした。でも付き添いの私達は「二十歳なんだ」としみじみと実感し席につきました。式の間はまるで借りてきた猫のように静かで落ちついてきた江竜さん、かと思えば周囲どこを見ても大好きな着物ばかりで大喜びで落ちついていられない上西さん、と対象的な二人でしたが、二時間程の式に飽きることもなく、もしかしたら上西さんは会場で一番楽しんでたかも知れません。

お祝いの昼食を済ませた帰りの車中、成人式の主役の二人はともかく職員、親御さん共々二十年の歳月を振り返り思い出話に花が咲いていました。小山さん、江竜さん、上西さん、成人おめでとうございます。

# 昔々今ふく

僕が小学生のころ身体が弱く学校を休むことが多かった。なんとか人並みに元気になるかと思ってしまう。それが寮生の身体づくりを考えるものになっていた。

近江学園での修行時代、糸賀先生から「身体づくり、健康、食生活、教育」



▲S54年の臨海学舎での野瀬くんと保母さん

愛くるしい野瀬君の笑顔が今も目の前に浮んでくる。ご機嫌な時の彼の笑顔はだれをも引きつけてしまう魅力があった。障害の後遺症で言葉をうしない、けいれん発作と身体の不自由さになやまされ

ての毎日を落穂寮ですごしていた。僕が小学生のころ身体が弱く学校を休むことが多かった。なんとか人並みに元気になるかと思ってしまう。それが寮生の身体づくりを考えるものになっていた。

僕が小学生のころ身体が弱く学校を休むことが多かった。なんとか人並みに元気になるかと思ってしまう。それが寮生の身体づくりを考えるものになっていた。

活のリズムがおかしくなると身体も変調し病気になる、心もうとうとして不愉快になっていく。寮生の健康を第一義的にかんがえ、早朝寮内を汗流して走る習慣があった。身体のリズムを整え健康であることが心を整え快適にする。と古今東西いわれていたが、早朝の日課に野瀬君も走り、時々立ち止りながらの完走だった。

またある日、先生から「身体の経絡」と「指圧とお手当て」について教えられ、「ツボ」の指圧の仕方、「患部」に手をあてがう方法をなどを練習した。もっぱら家内を稽古台に励んでみて、自分なりに得るところがあった。

冬、職員朝礼の部屋に野瀬君が入ってきた。室内の温かさにひかれて居坐った。かれの手をとると麻痺の側は冷えきっている、擦ってあげるとこつと笑ってくれた。背中中に手を当ててみると麻痺の側が固い、擦ってあげるとこつとまかせて静かに坐っている。

理事長 増田正司

お手当て 寮生野瀬君をしのんで

# 昔々今ふく

(12年1月14日)

## ウルトラミニコンサート

寮 長 山 下 陽 一

一九九九年一月二四日、一麦寮のクリスマス会でミニコンサートが開かれました。モーツァルト作曲の合奏曲「おもちゃのシンフォニー」の第一楽章。演奏時間は、アンコールの「聖夜」の演奏も合わせて十数分程度だったでしょうか。演奏者は二人のエキストラと、他は指揮者を含め施設に勤めている職員によるものです。ヴァイオリン、チェロ、太鼓、笛などオリジナルな楽譜で演奏がなされました。故田村先生が「施設の職員だけで演奏会ができないものか」というお話をしながら沿っているのではないかと思えます。演奏者自身もあまり日常的でない弦楽器を使いこなすことはいろいろと難問もあつたでしょうが、それにしても仕事の合間の時間を費やしてなんとかひととおりの所まで辿りつきたことは満足できたのではないかと思います。

合奏曲の主要なメロディーを演奏していたエキストラは、ナイーブな青年達N君兄弟でした。特に弟君は演奏会前日に帰省して「あつたならな」といいながらそれから練習を始めた様子です。三時間程度の練習時間がやっとというものの、それで合奏できるわけですから、やはり後発の愛好家とは基本的にどこかが違うようだと話したものです。後に知ったのですが、N君兄弟は糸賀先生のお孫さんに当たる方です。施設職員による弦楽演奏が今日できたことにあつて不思議な「縁」のようなものを感じたのは私だけでしょうか。

困難と感じられていたミニコンサートが、このようにして一麦寮で開くことができたのは、いろいろな人の気持ちがあつたのだと思えます。この演奏会を終えて何か爽やかな疲労と達成感が残っています。もう少し腕を上げて新しいものに向かっています。





▲ちょっと怖いよーE班

乗る人もいるな  
どいっしょ  
ぶなれど  
ンパ1で  
行っつき  
ました。  
観光バス  
と違い、移  
動が多く、  
通行人の



▲いっばい遊んだよーF班

私たちがG班は9名  
という人数で宇奈  
日温泉へ行っつき  
ました。観光バスに  
揺られながら1日目は  
魚津水族館でイシダ  
インのショーやたさ  
くの魚を見ました。  
延対寺荘というホテ  
ルでは豪華な料理と  
ちよびのアルコリ  
をしました。のん

### 初体験 トロッコ列車



▲いざ出発！F班

### のんびりゆったり

E班では、のんびりゆったりと  
できるようにと計画し、三重県方  
面に行きました。近いというこ  
もあり、バスの中では退屈するこ  
ともなく伊勢神宮で昼食を摂り、  
鳥羽水族館に到着。館内では階段  
が多く移動が大変ではありますが  
が、大きな魚を見て怖がりたり、  
色鮮やかな魚を見ながらと寮生  
さんの反応も様々で楽しかったで  
す。

### 落穂初 電車で年長旅行!!

電車に乗りた。電車で旅行へ  
行っつきた。の希望を元にF班  
ではJRを使って淡路島へ行っ  
てきました。電車には乗り馴れてい  
る人も、初  
めて電車  
に乗る人

# 年長旅行

今回は7つの班に分かれて計画。そのうち実施された6つの班の報告です。



▲これは何だ？A班

うに、と思っ  
た事が裏目に出  
てしまっ  
らうこと  
を感じま  
た。みな  
んなはど  
んなな思  
い出にな  
ったので  
しょう。

### 淡路・四国旅行へ

初日予定していた魚釣り体験は、  
雨天の為中止となり、テーマパ  
ークに変更。テーマ  
パークでは、乗り  
物で楽しんだ寮生  
さん、乗り物が怖  
くてテーマパーク  
のゲートで足が止  
まっつしまっつ寮生  
さん、乗り物より  
「ジュース」と  
主張する寮生さん

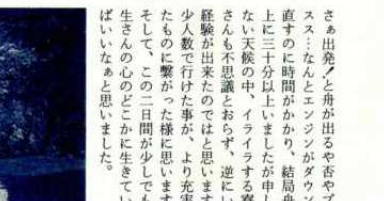


▲どっち向くの-C班

など様々でした。  
旅館では、温泉に、沢山のこ馳  
走に舌鼓を打ち、寮生さん、職  
員共々満足でした。  
2日目は、金比羅参詣、讃岐う  
どんの輪作り体験、金比羅参道の  
長閑段も、スタスタと登って行く  
寮生さん、太い繩だりでは、お団子  
になったり、太い繩だりやそれ  
ぞれのいい味が出て良かったです。  
お風呂も気分も大満足のC班でし  
た。有難うございました。

### 一路熊野へ

「天気、どうなるのかな。」  
とても心配でしたが、当日は出  
ずまのお天候。川湯温泉には発  
して旅達は途中熊野古道の大門坂  
で平安衣装を着ました。皆とても  
よく似合っているを着ているのに  
何故か個性がよく出ています。



▲おめかしでハイポーズ-D班

その後は、マッショ  
ンへ、ご馳走を  
食べた後、メイ  
ン風呂へ。大き  
なお風呂でゆっ  
つり温まりました。  
翌日は見事  
な快晴の中、熊  
野快晴、しかし  
狭路、しかし

多いで歩いた  
行のいつもの旅  
行の仕方と今回  
は全然違ったの  
で体力的に疲れ  
てしまった人も  
いました。が、い  
いはないです。  
うか？淡路島  
ではジャンボク  
パークへ行って  
乗り物に乗った  
りといういろいろ  
楽しみました。

さあ出発と舟が出る否や否ブス  
スス！なんとエンジツがダウン。  
直前の時間にばかり、結局舟の  
上に十分以上しまいましたが、結  
なり、天候の中、イライラする寮生  
さんもお不思議とおらず、逆にい  
経験が出来たのにはと思います。  
少人数で行った事が、より充実し  
たものに繋がった様だと思います。  
そして、この二日間が少しでも寮  
生さんの心の中に生きていられ  
ばいいなと思います。

# 日赤奉仕団「おもちつき」



十二月十日に日赤奉仕団の方々が、おちほ寮にお正月を連れて来てくださいました。「おもちつき」です。今では一般家庭では殆んど見る機会がなくなつた季節行事ですが、奉仕団の方々のおかげで寮

生さんはとても楽しいひとときをすごすことができました。寮生さんも杆をかついでの奮闘ぶりを見せ、みんなでおもしろいおもちをいただくことができました。一日、ありがとうございました。

## 訪問者

冬の夕暮れは早い。午後5時頃になると辺りは真っ暗になってくる。事務所も午後6時近くになると静けさだけが身にしてみても、一人で仕事をしていると、やけに寂しさを感じてしまう。

昼間は頻繁に寮生が訪ねてくるのに、夕飯の時間が近づくと誰も訪ねては来ない。誰か来てくれないかと、思っていると、6時半を過ぎたころ、事務所の勝手口で誰かが入ってくる音がする。「おっ！来たな」と思っていると、時にはけたたましく、あるときはのぞきこむようにそっとドアを開けて入ってくる人がいる。S君である。事務所に電気がついて

と決まってやってくる。事務所に入るなり辺りを物色し、炊事場に行き冷蔵庫、戸棚をのぞき込んで何かないかと捜し回る。欲しいものが何もないとわかると、次はトイレに入っていく。

S君は言葉を発するころができないため、ただ黙って物色して回っている。それも5分か10分程度の訪問であるが、事務所に一人である私にはほっとする一時であり、嬉しくなってS君に話しかけると、何かものいいたげに視線を返してくれる、その視線に再び話しかける私です。そのころ、担任の職員はS君を捜しに寒空の中の夜の寮内を走り回っていました。ただただ申し訳無いです。

▽「ありがとうございます。」の一言しかありません。みなさんのあたたかい御支援のおかげで、落穂寮の新寮舎が無事に出来上がりました。今後は、それに恥じないものを私達職員が築き上げていかなければと思っています。どうか今後も、寮生共ども、よろしくお願いいたします。

▽冬の寒さが厳しい程、春の花はうつくしく咲くと言いますが、はてさて、今年は暖冬だったので、あまりうつくしい花は望めないのでしょうか。でも、当寮のみんなにとっては、この一年半は厳しい冬だったかもしれません。来年度の春には、とってもいい笑顔が沢山見られる。そんな一年であって欲しいと思います。

### △△△木 △△△こと △△△

「厳しい寒さは花のために。自ら落としてたえしのぶ。しかしそれはとどまらず、見果てぬ夢へとつながってゆく。」希望を持つことは難しいけれども、信じていることは、あなた次第。信じていますか、あなたを。信じていますか、あなたは…。